

実践教育研究発表会 2025

2025. 8. 22～8. 23

大会テーマ 「未来を拓く ものづくり・ひとづくり」

2025年度の実践教育研究発表会（東京大会）が8月22日から8月23日までの日程で、東京都荒川区の東京都立産業技術高等専門学校高専荒川キャンパス（以下、都立産技高専という）で厚生労働省、高齢・障害・求職者雇用支援機構、東京都荒川区教育委員会の後援で開催されました。

大会は「未来を拓く ものづくり・ひとづくり」を大会テーマに掲げ、大会運営委員会および実行委員会によりいろいろな企画が準備されました。

2日間の会期中、延べ450名余りの参加者により発表や討論、情報交換、交流が行われました。

3系共同の企画である特別講演では、「医工連携等育・研究プロジェクトの紹介（都立産技高専 荒川キャンパス）」というテーマで都立産技高専の校長である吉澤 昌純氏の講演が行われました。

講演では、都立産技高専の4科から選抜された学生に対し、正規外の教育を行うプログラムについて紹介がされました。各プログラムについて熱の籠もった説明がされ、とても視野が広がる講演会となりました。

特別講演の後、各系の競技会の表彰式が行われました。



発表会会場（都立産技高専）



特別講演の様子

各専門部の企画もそれぞれ行われました。

機械系企画では、「新しい技術の教育への活用」というテーマでシンポジウムが行われました。3氏（小林崇氏、安井雄祐氏、安倍貴博氏）講演の後、活発な討論が行われました。機械系表彰式では、「機械系ジャーナル賞」の表彰式が行われました。

電気・電子・情報系では、企画Ⅰ「クラウドを利用した実践技術者の育成について」というテーマで座談会、企画Ⅱ「ものづくりコンペ 2025」競技会の結果発表と上位入賞者のプレゼンテーションが行われました。

建設系では、企画Ⅰ「第8回建設設計競技会」の入賞者発表と入賞者7名のプレゼンテーションが行われました。企画Ⅱでは「株式会社 松下産業様所有の鳳明館本館」と「清水建設 株式会社様 NOVARE」の見学会が行われました。

一般講演では機械系21件（対面20、オンライン1）、電気・電子・情報系20件（対面15、オンライン5）、建設系12件（対面9、オンライン3）、能力開発分科会12件（対面9、オンライン3）、ポスターセッションの発表は、今回はありませんでした。

企業展示では、全国から19社（19ブース）の出展があり、教育訓練教材や関連製品などの展示が行われました。各ブースの展示には興味深い教材が多数あり、非常に参考になりました。

全体交流会は、ホテルランウッド（日暮里）で開催され、全国の教育訓練施設から来られた会員と賛助会員、発表会関係者の交流が行われました。



一般講演の様子



企業展示会場の様子



全体交流会の様子